

上矢田交差点立体化工事における新たな取り組みについて

東北地方整備局 磐城国道事務所 平出張所 熊谷 盛

1. はじめに

現在、道路行政に対する利用者ニーズは多種多様化しているが、一方では限られた財源内で効率的に良質な社会基盤整備を行う事が必要とされている。また、公共事業全体においては、アカウントビリティによる透明性の向上、住民参加、コミュニケーション機会の増加等が重要となっている。

本報告は、H14年12月に完成供用した一般国道6号・49号上矢田交差点立体化事業の施工にあたり、これらの課題への対応として、現場サイドで検討・実施した「新たな取り組み」の内容について、道路利用者からの評価も加えて紹介するものである。



写真-1 上矢田交差点全景

2. 目的

道路管理者として、今後取り組むべき多くの課題のなかで、今回の立体化事業の施工にあたっては、交差点形状が平面T字型からランプ構造となる準直結Y型へ変更となる事から、「利便性・維持管理面の向上」はもとより、説明性の向上を図るべく「広報のあり方」に主眼を置いた取り組みを実施し、道路利用者・管理者の双方が満足できる道路づくりを目指したものである。

3. 取り組み内容及び評価

各取り組みの内容については、下記の4項目において各種条件を踏まえ、本現場に適合するものを採用した。

< 検討項目 >

「攻めの広報」 「分かり易さの向上」 「人にやさしい」
「維持管理のし易さ」

3.1 「攻めの広報」的な取り組み

3.1.1 現地看板による新たな情報の提供

< 内容 >

事業を進めるにあたり、道路利用者が求めている情報提供を行うべく、工事の進捗よく率及び供用日までの残日数を明示した看板を現地へ設置した(写真-2、3)。



写真-2 進捗よく率看板



写真-3 カウントダウン看板

<評価>

- ・工事の進み具合を、「進捗率」という定量的な情報を用いて現地でお知らせする事により、工事の説明性を高めたと考えている。
- ・また、「供用までのカウントダウン」については、説明性の向上に加え、「開通までの期間の変化を視覚的に実感していただく」といった点からも有効だったと考えている。
- ・なお、同看板については、道路利用者の方へアンケートを実施し、意見や感想を伺っているが、結果として9割以上(91%)の方から「良い()」という回答が得られている(121件/132件)。

「良い」という回答のうち主な意見

- ・完成時期の目安が表示されるので、走行中の楽しみでもあり、また、開通への期待感が高まった。
- ・「進捗率」、「カウントダウン」が表示される事で、渋滞していてもイライラが軽減した。・・・等

3.1.2 広報誌を活用した住民との対話

<内容>

工事の内容やトピックスなどを、広報誌:「上矢田交差点通信(写真-4)」としてとりまとめ、持ち帰り用やホームページ掲載はもとより、地元住民の方への直接配布も行い対話機会を増加させた。

<評価>

- ・関係住民が少なかった事も幸いしたが、広報紙を直接訪問配布し、住民の方々との会話を重ねる事で、信頼関係を築く事が出来たと考えている。
- ・また、今回は、工事説明会時に住民の方から頂いた意見についても、広報紙を通じてその対応をお知らせしたが、頂いた意見への回答を伝えるツールとしても、有効だったと考えられる。



写真-4 上矢田交差点通信

3.1.3 現場見学会の開催

<内容>

現地総合学習の一環として「国土交通Day」に合わせ、地元小学生を対象に現場見学会を開催した。内容については、校内において事業全体について説明した後、現場に移動し実際に工事の状況等を見学してもらうという形で行った。また、見学後にはランプ橋の床版上で落書き大会及び記念撮影を行った(写真-5、6)。



写真-5 現場見学会状況



写真-6 落書き大会

<評価>

身近に接しながら説明を行った事で、事業の必要性を深く理解してもらう事ができ、また、今回を機会に道路への興味、愛護心を持ってくれたものと思われる。

3.1.4橋名板への「小学生が書いた筆文字」の採用

<内容>

現場見学会に参加した小学生を対象に、橋名板(Aランプ橋、Dランプ橋)の筆文字を原稿募集し、選定のうえ右写真のとおり採用した(写真-7)。

<評価>

- ・次代を担う子供達へのアプローチの仕掛けとしては有効だったと考えている。
- ・また、マスコミの取り上げ方からも、その話題性を高める方法として効果的であった。



写真-7 橋名板(上矢田Dランプ橋)

3.2「分かり易さを向上」させるための取り組み

ランプで構成される当該交差点の方向別案内を分かり易くするための工夫として、標識について次のような取り組みを実施した。

3.2.1遠方照明式案内標識

<内容>

進行方向が交差する特に分かりづらい箇所の予告標識については、遠方照明式標識を採用し視認性の向上に努めた(図-1)。

<評価>

専用照明灯については、維持管理が発生する事から、今後追跡調査を実施し、管理面からの評価を加える事が必要である。



図-1 遠方照明式標識イメージ図

3.3「人にやさしい」道路附属物の採用

3.3.1横断歩道橋手摺

<内容>

6号本線を横断する上矢田歩道橋の手摺については、冬期間利用時の冷感防止のため、樹脂カバーされたものを採用した(写真-8)。

<評価>

当該箇所は、東北地方の中では温暖な地域ではあるが、冬期間は相応に冷え込む事から、利用者からは好評を得ている。



写真-8 横断歩道橋手摺

3.3.2弾性車止め

<内容>

6号本線部の歩道において一部幅員箇所があり、車両進入を防止するため車止めポストを設置したが、材質については、歩行者・自転車衝突時の衝撃が緩和されるよう廃タイヤチップを再利用した弾性車止めを採用した。

<評価>

歩道通行時には多少障害に感じられるが、衝突の際には、その効果が得られるものと思われ、交通安全上有効であると考えられる。

3.4「維持管理し易い道路」を目指した取り組み

3.4.1代替通行路の確保

<内容>

1車線のランプ上での通行障害発生時等における代替通行路として、立体化に伴い不要となる残道路部を活用する事とし、また、それぞれの非常時開口部については、着脱式防護柵を設置した(写真-9、10)。



写真-9 残道路の活用



写真-10 着脱式防護柵

< 評価 >

着脱式防護柵については、中央分離帯部は、撤去時に機械が必要な形式となったが、路肩部については、人力で撤去可能な構造となっており、緊急時の開放作業の容易性はある程度保持出来たと考えている。

なお、代替通行路スペースについては、修景的視点からの配慮が今後の検討課題として考えられる。

3.4.2防草対策

< 内容 >

法肩、法尻部については、プレキャストブロックを設置し、メンテナンスフリー化を図った(写真-11)。

また、植樹帯部については、雑草の生育抑制の目的でチップ材を利用したマルチングを施工した。

< 評価 >

- ・プレキャストブロックについては、曲線区間や法勾配が変化する区間の施工性にやや難があり、シールコンクリートとの使い分けに検討を加える余地がある。
- ・マルチングについては、その材料を他工事で発生した伐採木のチップ化で対応したため、リサイクルの観点及びタイミング的に良好だったと考えている。今後は、防草効果を満足するために必要な仕様の検討は勿論、防火性や持続性等の視点を加えた追跡調査が必要と考えている。



写真-11 プレキャストブロック設置状況

3.4.3ランプ名(地点)表示

< 内容 >

同一箇所に存在する4つのランプの名前と場所を容易に認識できるように、ランプ名表示板を設置するとともに、100m標も設置した(Cランプの100m地点「C-100」、写真-12)。

< 評価 >

- ・表示板及び100m標を設置した事により、管理の効率化が図られた。
- ・また、利用者にとっても方向の識別が容易となるため、サービス面の向上にもつながっているものと思われる。



写真-12 ランプ100m標

4. おわりに

今回の上矢田交差点立体化工事においては、各方面に配慮した様々な取り組みを実施し、結果として概ねその効果は得られたものと思われる。

特に好評が得られた各種広報活動については、今後も道路利用者の視点に立ち、求められている情報の提供等に心掛けていきたいと考えている。

なお、一部課題等が残されている取り組みについては、継続してより効果的な方策を検討し、今後の事業へ反映させていきたいと考えている。